

大正大学

資産

第十三回 チヨーマ像



チヨーマの肖像画
T. デウカ著、前田崇訳(1998)
『チヨーマド ケーレスの生涯』山喜房仏書林より

大正大学附属図書館の入り口には、勉学に励む学生の往来を見守る銅像があります。ハンガリー出身で近代チベット学の偉大な先駆者である、チヨーマの銅像です。

アレキサンダー・チヨーマ・ド・ケレンシ(Alexander Csoma de Kőrös, 1784-1842) は、ヨーロッパ初のチベット学者であり、東洋学の始祖として崇拝されている人物です。チベットの僧院で9年間『西藏大蔵経』を研究し、1834年には4万語に及ぶ近代的な「蔵英辞典」や「西藏文法」を出版しました。この辞典は、今日のチベット仏典の解説に利用されている蔵英辞典にも多大な影響を与えています。

その学的偉業をたたえ、鑄造されたのがこの銅像です。ハンガリー国民の友情の証しとして、ハンガ

リーの東洋学会より日本国民に対して贈呈されたチヨーマ像の贈呈式は1933年2月22日に本学で執り行われました。記念講演をされた高楠順次郎博士は「この偉大なハンガリーの学者は、生命を賭して仏教学の学問的根底のよりどころを打ち破った。彼こそ西洋における仏教の偉人とみなされて良い。仏教には人種的偏見は一切無いし、また宗派運動でもないから、真のキリスト教徒チヨーマを喜んで正式に認められた菩薩に加えるのである。」と述べています。

現在、本学図書館に安置されているのはレプリカであり、このとき贈呈された銅像は現在、東京国立博物館に保管されています。贈呈当初は本学にある本尊阿弥陀如来の脇立ちとして、少なくとも1ヶ月は安置されていたそうです。

